

21世紀水倶楽部だより

発行：特定非営利活動法人 21世紀水倶楽部
発行者：亀田 泰武
編集：特定非営利活動法人 21世紀水倶楽部 広報担当
〒171-0011 東京都豊島区目白 2-1-1
URL <http://www.21water.jp/>
E-mail info1@21water.jp

第 28 号 2013 年 7 月 18 日号

設立 10 周年を迎えて

理事長 亀田泰武

当 21 世紀水倶楽部は NPO という新しい概念のもと、普及啓発の情報発信をしようと発足したが、いろいろな試みを試行錯誤しているうちに気がつくとも 10 年たってしまった。設立当時は多数の目標があったが、思い通りにいかないもの、新たな展開ができたものなどいろいろであった。



当 NPO 活動の大きな目的は水環境の知識の普及を目指すことで、この課題は非常に大きい。環境、安全に関連して異常に怖がる社会現象によって、これまで、莫大な社会コストがかかってきた。高度成長時代ではまだ吸収できたが今後の生産力が減退することが考えられる社会では、対処が難しいであろう。このため、常識の普及と啓発によって、健全な環境が保たれ、できるだけ無駄なコストがかからないような社会にすることが期待される。

東日本大震災の大津波で生じた大量のがれき処理について全国の廃棄物処理事業が応援の手を上げるべき所、放射能が入っているなど危険をおおる勢力によって扇動され、東京都だけはしっかりしていたが殆どの自治体が要請に答えることができなかった。放射能の中間貯蔵施設計画も安全なものであるのに関わらず、反対され事業が遅れている。人がいかにきれいな世界にいないといけないような風潮であるが、人は存在そのものが汚いのである。一人の日本人は 1 年に 100 t の下水、0.4 t のゴミ、それに 10 t ちかい CO2、を排出する。汚れはどこかで処理しなければならず、そのコストは結局皆で負担することになる。昔、下水処理場の計画反対運動で、多くの自治体職員が苦勞され、多額の社会的コストがかかったことを思い出す。

環境に対する適切な知識の普及と啓発がなされ、優れた環境の

もと、莫大な社会コストの損失がないように頑張っていかなければならない。

NPO 活動で大事なものは、社会からできるだけ大きくその存在を認められることで、それによって活動の範囲も広がるし、活動の効果も出てくる。

この活動は会員の自発的な活動なしでは成り立たず、今後ともできるだけ多くの方々に汗をかいて諸活動をしていただいて、一層世の中に認められ、役立つ団体にしていきたい。

2013 年度通常総会報告

理事・事務局長 田野嘉男

4 月 1 日より名称を新しくした（公財）日本下水道新技術機構 8F 会議室において、NP021 世紀水倶楽部の通常総会が開催（6 月 20 日（木））されました。

審議事項は以下のとおりです。

1. 平成 24 年度事業報告、活動計算書、付属資料・監査報告
2. 平成 25 年度事業計画（案）、活動予算（案）
3. 役員選任

会議冒頭の挨拶で、亀田理事長は当 NPO が設立以来今年度で 10 周年を迎えること、

10 年間の活動総括として、今年度さまざまなことを考えている旨挨拶された。

1 つは、パンフレットの改定 2 つは、GKP の協力を得て「下

水道展 13 東京」に出展すること 3 つは、設立 10 周年記念事業として「活性汚泥生誕 100 年」の記念講演会開催であり、それらの実現のため会員のお力添えを賜りたいとのことであった。



続いて議事に入り、24年度事業報告・活動計算書の内容が説明され、共に承認された。ひき続いて25年度事業計画において10周年記念事業の概要とそれらに要する活動予算の内容が説明され、共に承認された。役員を選任については、阿部恭二、亀田泰武、栗原秀人、昆久雄、佐藤和明、清水治、巽良雄、田野嘉男、土屋潔、廣本真次郎、望月倫也、渡部春樹の各理事および河井竹彦監事の再任が承認されるとともに、二宮毅、松井瑞江両理事の辞任に伴う中西正弘、山下博両氏の理事就任および増員の監事に藤原昇氏の就任が承認された。また、引き続いて行われた臨時理事会において理事長に亀田泰武氏、副理事長に清水治氏、事務局長に田野嘉男氏が選任された。

議事終了後、講演会が開催されました。テーマは「開港と下水道」（横浜市下水道の歩み）で選任されたばかりの山下博理事から興味ある講演がありました。

5時半から懇親会が開催され、来賓として国土交通省下水道

部から増田下水道事業課長が来られ、多数の会員とともに懇親を深めることが出来ました。

会員だより

岩手県大槌町での活動

林 正生

NP021世紀水倶楽部の会員の皆さんお元気でしょうか？

前々回、3月の「たより」に引き続きの続編です。

昨年9月から大槌町へ来て、10ヶ月の日が過ぎました。

本年度4月から私は、産業振興部農林水産課から復興局復興推進課へ異動となり、本格的な復興の中核を統括する部署に居ます。

最近、大槌町では家の基礎解体工事が始まり、瓦礫は少なくなり、今年度末には瓦礫が無くなる予定です。

また、10月から町中心地区では、盛土工事が始まります。少しずつ復興が進んでいる状況です。

私の生活や仕事の状況を報告させていただきます。

今年から、仮設住宅の住まいから大槌町で用意された宿舎（DKタイプ）に住んでいます。

宿舎には、A～D棟に派遣職員の40名が住み、役場まで車10

分の場所に居ます。

今年度も全国からの派遣職員は約90名で、他の40名の職員は仮設住宅に住んでいます。

まだ、多くの住民の方は、仮設住宅に住んでいる為、私たちが快適な暮らしをしているので大変申し訳ない気分です。

単身生活中で、毎日、家事や自炊を行っています。富山では、自炊生活の経験がなかったので、家族の大切さが身にしみます。

役場は津波で被災したため、火災等で影響を受けた大槌小学校を改築した場所で仕事をしています。

部屋づくりは、小学校の間取りを代えているため、課毎に扉が付いています。

現在、町の職員は約220名体制で、北海道から沖縄までの約90名が派遣職員です。

ほとんどが関東や関西の自治体からの派遣職員（任期付き職員も含む）で、民間派遣は4名程度（情報系が主体）の状況です。

派遣者の中には、土木の技術者は少なく、各自治体と町との人材のマッチングが出来ていない状況です。また、各自治体も土木系の仕事が多く、なかなか派遣が出来ない実情があると思っています。

復興計画の業務は、用地買収や計画づくりが主体であり、コン



サルの業務が多い状況です。

業務は上下水道の設計計画ではないのですが、道路や造成計画等を行っており、いろいろと活躍できる場となっています。

今回は、私自身の町での活動について報告します。 つづく

ロサンゼルス見聞録その16 私立幼稚園時代の孫

内田信一郎

娘の会社と幼稚園とは200mほどしかはなれていないので、出勤途中で孫を幼稚園に降ろしてから会社に向い、夕方、勤務後に娘が幼稚園によって子供をピックアップする。その私立幼稚園は韓国のキリスト教系の幼稚園であった。

アメリカは日本と違って5歳で小学校に入学する。孫は8月30日生まれで、9月から入学となると、実質上4歳で小学校に入ることになる。幼稚園では年中組みと年長組みの2年間そこに籍を置いた。園児数は150人ほどで、そのうち韓国人以外の園児は孫の他、白人の子供等、10%以下であった。

この幼稚園は母親達の多くが共働き家庭が多いのだろうか、朝食、昼食、夕食の3食付きである。幼稚園で朝食を取る園児もいて、夕方、迎えに来る時間が遅い家庭のために夕食も出る。一般の幼稚園の場合は午後に迎えに行かねばならず、その後は学童保育的なところに預けないと共働きの母親は勤務中に園児を迎えに行けないので、夕方遅くまで預かってくれる幼稚園は非常に助かるようである。

園児達の日常の会話は年少及び年中組みは韓国語、年長組みは英語であった。孫は当初は韓国語を何も話せないで大変であったようであるが子供は環境に直ぐになれる。韓国語を耳から聞いて反応する。一方、韓国の母親は英語と韓国語を使っているが、娘には英語で話してくれる。

クリスマス会や卒園式に間に合うようにロサンゼルスに行っ



てそれらに参加したが、日常の教育はしっかりしていた。卒園式はアメリカの大学等で見ると角帽にガウンをまとい、園長から卒業証書を受け取る。角帽にガウンは

勿論にわかつくりのものであるが、遠くから見ると威厳を少し感じる出来ばえである。

日常の幼稚園は楽しく過ごして友情を育むようなスタイルと

感じた。年長組みの時などは夕方、迎えに行っても園児ももっと一緒に遊んでいたいと言う事が多かった。小生が滞在している時は朝、娘と



孫との4人で出かけ娘と孫を目的地に下ろした後は自分で自動車を運転して、途中で現地又は日系の食料品店等に立ち寄り食品や雑貨を買い求め、自宅では掃除、洗濯などの下男、下女的な働きをして娘家族を支援し、夕方またラッシュ時間帯に自動車を運転して娘と孫を迎えに行く生活パターンであった。

編集幹事のあと整理

- 巻頭文は亀田理事長のNPO「設立10周年を迎えて」。亀田泰武氏は先月の通常総会で理事長に再任されましたが、NPOは丁度10年の切れ目となるので、その経緯と今後を語られています。あわせて社会の動きとNPOの役割についても。
- 6月21日の通常総会の報告を田野事務局長からいただき掲載しました。10周年の今年、記念として予定していることと、二年ごとの役員改選期にあたる今年度の新役員の顔ぶれの説明などです。
- 会員だよりの連載もの、林会員は前々号に「岩手県大槌町へ」赴任された続編で、そこでの活動状況。内田会員のロサンゼルスシリーズは16回目で、お孫さんの幼稚園の様子。韓国キリスト教系の幼稚園だそうで、日本的環境ではない興味のあるものです。
- 会員だよりのコーナーへの投稿を募集しています。投稿はいつでも受け付けます。直近の号に掲載します。投稿要領などは望月から毎回お出ししている原稿依頼メールをご覧ください。

編集幹事・望月